入ってきますと薬が飲めなくなっていきます。そうするとダイレクトに影響が出ますから、残り時間が短くなります。基礎疾患についても考えないといけないなあと思いました」。中田さんは看護師の立場から、介護職員にも医療的な勉強も必要だと言います。

## 家族への丁寧な説明

「入居時に看取り介護の希望も伺うようにしています。実際にその時が近くなったら詳しいお話をさせていただきますと前置きしたうえで、どういった最期を希望されるのかということを、今の段階のお気持ちで結構なので伺ってよろしいですか、と極力ソフトな言葉でお聞きするようにしています。これから生活していく中で揺れ動いて、最後に気持ちが変わったとしてもまったく差し支えありません、ということもきちんと伝えます」。

施設でできること（コスモス苑看取り介護講演資料参照）と、できないことを説明することも重要です。実際には、同意書を交わした後、やっぱり最期は病院で治療してほしいと希望する家族は、ほとんどいないのが実情だそうです。

日頃のケアにおいて、ご家族と職員との信頼関係が築けていれば、いざ看取りに入るというときにも、自然に看取りに同意していただけるといいます。いかに普段の日常的なケアできちんと信頼関係を築けるかということが、最終的な看取り介護の達成につながります。普段の介護の延長線上に看取り介護があるとは、そういう意味です。

日常のケアにこそＱＯＬ（クオリティ・オブ・ライフ）は大事ですが、人生の最期を迎える看取り期においては、一段階高いレベルでのＱＯＬが大事であり必要とされます。

「治療のために入院されて、入院中に最期が近いと診断された方も、ほとんどの方は、最期は少しの期間でもいいのでコスモス苑に戻って最期を迎えたいと言います。慣れ親しんだ環境で、なじみの職員や入居者様とともに最期を迎えたいという気持ちのほうが自然なのかなという気がします。その気持ちには可能な限り対応するようにしています」。

ご家族のご希望があれば苑内葬儀にも対応しています

## 介護職員の精神的ケア

看取り介護が終了した（逝去された）とき、一番その方に接していた介護職員は「もっとこうすればよかった」「もっとできることがあったのでは」といったストレスや後悔の念にかられることも多いといいます。「亡くなること自体は避けられないことなので、そこに関して『よくやれた』といったフィードバックも当然必要だと考えています。精神的な負担を軽くするということと、反省点として挙がっていることを次に生かせば、より良い看取りケアができるという方向で話をすると、結果的に精神的ストレスの軽減になると思っています」。

病院を退職後、全道の高齢者施設を回って歩いたという中田さんは、その経験から、「教育ってすごく大事だなあと感じました」と言います。ここに勤めているから褒めるわけではないが、と前置きして、「コスモス苑の介護職員はプライドを持って働いているなと感じます。入居者様に対して決して声を荒げない。常に敬語で接していますし、最期まであきらめない。最期まで床ずれを作らないようにしているとか、マットレスの交換なども介護職員から要求してきます。介護職員に看護師と同じレベルでケアしたいというプライドがあるんですね。私はここへ来て1年ですが、入居者様は本当にきれいな最期を迎えています。福祉施設は入居者様の生活の場だという認識が非常に強いんですね」。

## 全職員の連携が必要

他の施設の看取りの状況を聞くと、進んでいない原因の一つが、看護師の協力がなかなか難しいという話をよく聞くという新井さん。「いま中田は医療の立場から介護職員の質の良さを言ってくれたんですけど、相談員、介護職からすると、看護職のトップが協力的に、介護職員側の立場をフィードバックしてくれるということも非常に重要だと思っています。ケアの部分は介護職員が大部分を占めるんですけど、既往のある方がほとんどですので、薬のコントロール、水分補給のための点滴といった部分では、看護職がいないと介護の質が保てません。看護職と介護職だけでなく、全職員がお互いを尊重しながら連携してケアにあたっていけるということが、コスモス苑の看取り介護の強みにつながっていると思います」。

最後に、「入居者様が安心して最期を迎えられるよう、そして入居者様とご家族が人生の最期の場所としてコスモス苑を選択していただけるよう、これからも職員一同研鑽を積んでまいります」と力強く語ってくれました。

### コスモス苑の看取り介護講演資料
（一部抜粋）

コスモス苑で出来る事

①お食事について…ご本人様の状態に鑑みご家族様のご希望も伺い、最後までお口からお食事が出来るように、色々な選択肢をご提案させて頂きます。施設として通常提供している食事形態（常食、きざみ食、ミキサー食、ソフト食）の他に、ご希望に応じて特別食（通常の食事代の他に自己負担が生じます）のご提供も出来ます。

②医療について…コスモス苑は生活施設ですが、病状に合わせたお薬の処方、診察・検査目的での通院など、柔軟に対応させて頂いております。看取り介護が開始になってからも、ご家族のご希望を伺った上で、例えば水分補給目的での点滴等、できうる限りの医療処置は可能です。

③胃瘻について…飲み込む力が弱くなると、誤嚥（食物等が何らかの理由で、誤って食道ではなく気管に入ってしまう状態）の危険性が高くなり、お口からの食事摂取が難しくなります。その際の選択肢の一つとして「胃瘻（胃に接続しているチューブから直接栄養を流す）」があります（入院手術が必要です）。

④痰の吸引について…ご自分で痰を吐き出すことが難しく窒息の危険性が高い方の場合、必要に応じて看護師が吸引装置を使用して、カテーテルで痰の吸引を行います。

※但し夜間帯は看護師が不在の為、夜間も痰の吸引が頻回に必要な場合は、入院も含めてご相談させて頂きます。

⑤がん（悪性腫瘍）に罹患している場合…がんは通常の病気と異なり、終末期には強い痛みが伴うことがあります。がんに罹患されている方がコスモス苑での看取りを希望される場合、終末期医療に詳しい外部の訪問診療医の協力を仰いでいます。

※医療保険での自己負担が発生します。

社会福祉法人 彩世会
札幌市豊平区月寒東4条10丁目8-30
電話(011)859-3311　FAX(011)859-3322

平成14年札幌徳洲会として法人設立。翌15年特別養護老人ホーム「コスモス苑」開設。平成25年に法人名を彩世会に変更しました。コスモス苑（定員60名）は、全室個室ユニット型施設です。プライバシーが確保された生活空間で10人を1ユニット（生活単位）とし、「その人らしさを尊重し安心して暮らせる施設」の理念のもと、個々のニーズや家族の想いを尊重し、入居者が楽しく健やかに生活していただけるよう、まごころを込めたケアの提供を行っています。

特別養護老人ホーム「コスモス苑」
コスモス苑デイサービスセンター
コスモス苑指定居宅介護支援事業所
地域密着型特別養護老人ホーム「コスモス苑さとづか」
コスモス苑さとづかショートステイ